

## 石井地区タウンミーティング(要約)

テーマ：石井地区のまちづくり

平成27年7月26日(日曜日)

【市長】 皆さんこんにちは。今日は石井地区でのタウンミーティングになります。タウンミーティングは皆さん聞かれた方も多いのではないかなと思います。極端な話をしますが、どっちが楽かという話をすると我々が市役所において、皆さんが来られるのを待っていたほうが楽です。しかし、果たしてそれでいいのでしょうか。我々から各地区に出向いて声を聞かせていただいて、各地区の魅力は伸ばす、課題は減らすまちづくりができればと考えました。松山市はこの石井地区をはじめ、旧の中島・北条をあわせて41地区あるのですけれども、市長の任期は1期4年48カ月ですので、当初は1カ月で1地区のペースで行かせていただくこうとやっていたのですが、このタウンミーティングはガス抜きなどのためにやっているのではなくて、皆さんからこういった場でご意見をいただいて、できるだけこの場でお答えをして帰りますけれども、中には国と関係をする案件、県と関係をする案件、財政的な問題があるもの、こういうものはいい加減な返事をして帰るわけにはいきませんので、いったん持ち帰らせていただいて、1カ月を目処に必ず返事をするという、やりっぱなしにしない、聞きっぱなしにしないタウンミーティングをしてまいりました。おかげさまで好評になりまして、思い切って前倒しをしてやろうということで、2年2カ月で1巡目が終わって1期4年の間で2巡りさせていただき、おかげさまで2期目に入らせていただくことになりました。2期目になったらもうタウンミーティングが終わりではなくて、このタウンミーティングはまた継続をさせていただこう。この地区別のタウンミーティングを開催させていただきまして、また新たな視点として農業、防災関係者の方々に集まっていたり、職業別のタウンミーティングですとか、大学生の方々に集まっていたり、子育て世代の方々に集まっていたり、世代別のタウンミーティングをさせていただきまして、今後は人生の先輩方、おじいちゃんおばあちゃん方に集まっていたり、世代別のタウンミーティングをやりたいと思っています。今回は地区別のタウンミーティング3巡り目の最初の場所を石井地区とさせていただきまして、石井地区はもうご存知のように松山市最大の地区でありまして、石井地区まちづくり協議会の池田会長さんをはじめ、役員の方々に大変お世話になりましたけれども、先進的な活動をされている石井地区に今回来させていただきまして、どんな有意義な意見交換ができるか楽しみにしておりますので、今日はどうぞ

よろしくお願いたします。

【司会】 それでは本日の趣旨について市長からご説明いたします。

【市長】 今日のテーマは、まちづくり協議会さんともご相談をさせていただく中で「石井地区のまちづくり」を主題とさせていただきました。石井地区は、まちづくり協議会が平成23年の5月に市内で9番目に結成をされています。その先進的な活動は、生活安全の部門・環境の部門・福祉の部門・文化の部門・広報の部門など多岐にわたるとお聞きしていただき心強く感じています。石井地区では、これまで2回、平成23年の8月と平成25年の10月にタウンミーティングを開催させていただいて、それぞれ大体100名くらいの住民の皆さんにご参加をいただきました。今日は石井地区のまちづくりが進むように議論を掘り下げて、地域の皆さんができること、また、市と協働してできることなどを一緒に考えさせていただきたいと思います。まず、1番ですが「まちづくりの普及、拡大に向けて」については、皆さんに申込みをいただく際、今後地区の発展には世代間の交流やコミュニケーションの向上、さらには、地域活動の活性化が必要であるとのご意見を参考にさせていただきました。次に2つ目の「高齢者に優しいまちづくり」については、石井地区で災害時の要支援者支援などで先進的な取り組みがされています。また、高齢者に対するものを多くいただいたものですから、2つ目のサブテーマとさせていただきます。ここで前回の平成25年10月に開催させていただいたタウンミーティングでいただいたご意見の中で、進捗があった代表的な2件についてご報告をさせていただきます。まず、石井小学校の東側から北井門へ抜ける車が多くて危ないので水路の部分を広げたらどうかというご意見をいただきました。現在、実施に向けて設計を行っています。設計ができ次第工事に入って、来年の3月末までには完了する予定となっています。また、もう1件、誰も住んでいない家のドアが壊れていて、子どもが通るときに危ないのでどうかしてほしいというご意見をいただきました。この空き家は、タウンミーティングの後に現地調査をさせていただいて、所有者の方に適正な維持管理を文書でお願いしたところ、所有者の方にご理解いただきまして、昨年3月現地調査を改めてした際に建物が取り壊されていることを確認いたしました。以上2件進捗があった前回の報告とさせていただきます。それでは早速皆さんとの意見交換をしたいと思いますのでよろしくお願いたします。

【女性】 4年前に宇和島市から変わってまいりました。そこで、「郷に

入れば郷に従え」で地区に溶け込んでいきたいと思い、区費を払い地区の様子を伺ったのですが、残念ながら総会に参加することができなかつたんです。それはどうしてかという、地区の集会所があまりにも狭くて参加の意思があっても参加できないということだったんです。それで昨年でしたかお祭りのお手伝いをしたときに、北井門の1丁目から5丁目まで使用する集会所があまりにも小さいので驚きました。これでは住民参加ができないなと思いました。地区でも、委任状もないし意見も言う場所がありません。他の市から入ってきた場合に受け入れてもらえる施設や場所がない。そういう状況でまちづくりをする。市の大きな目標が「人が集い笑顔広がるまつやま」だったと思うのですが、そういう観点からみて地区の集会所は自分たちが維持管理していくわけですけど、市長は参加できない住民がいるということについてどう思われますか。

【市長】 宇和島から変わってこられたということで、まず、市民部から松山市の公民館の考え方と集会所や分館といった考え方についてお伝えさせていただいたらと思います。

【市民部長】 市民部長の唐崎でございます。言われましたように、皆さんが集う場所がなかなかないというのは、各地域に行きますとそれぞれの施設は1つ1つが小さくなっていくので、一堂にというのはなかなか難しいと思います。松山市の各地区には、41地区に教育委員会で所管する公民館の本館を設け、それ以外に分館・集会所を設けております。これらは地元の方々に維持管理もお願いしています。大きなものをこれからつくるのは難しいと思いますので、各地区の施設を有効に使っていただければと思います。公民館以外にも市の施設は色々な用途で会議等にも使えるよう開放できますので、現状の施設をできるだけ上手くご利用いただくようご理解ください。

【市長】 公民館本館や集会所は大きい小さいがあると思いますが、ハードを構えていくのは難しい時代です。松山市は41地区あってそれぞれに公民館本館が置かれているんですけども、子育てサロンや読み聞かせ、青少年学級であったり、高齢者学級の講座とか、また、公民館本館の建物の中でやるものとしては文化祭があります。公民館本館以外では地区の体育祭とかグランドゴルフ大会をやっているところがあったりとか、そういうソフト面で皆さんが集まりやすいものを構えておりますので、もうすでに出かけられているのかもしれませんが、出かけて行っていただいつながりを持っていただければと思います。我々が考えますのは、つながりがない社会とつながりがある社会のどちらがいいかという、つながりがある社会のほうが絶対にいいです。例えば子育ての面でも若いお父さんやお母

さんが抱えるようにして子育てをするよりかは、地域とのつながりがあって「何か悩んでいるの？、何が大変なの？」と人生の先輩から声をかけてもらおうと子育ても助かりますし、介護の面でもそういったことがあると思います。防犯の面でも井戸端会議はコミュニティーの代表的なものの1つだと思いますけど、近所の人と話していて「ちょっと見知らない人が昼間にウロウロしているけど、空き巣でも狙っているのだろうか」みたいなことで、「鍵に気をつけないといけないね」と防犯力も上がったります。つながりがある社会が大事だと松山市として思っていますので、そういう機会をとらえてご参加いただければありがたいなと思います。

【女性】 農業用水路が張り巡らされていますよね。道後平野土地改良区の持分が55キロになるそうですが、この用水路の問題を市としてはどう考えておられるか。土地改良区が修理したりお掃除をして受益者がやっている部分と、昔からの風習でそのままで行われているところ、下水が通っているから下水道を払っている人は罰金は要らないとかいうものがあるのですが、うちは残念ながらどちらへも入っておらず、誰もお掃除も何にもないところなので、農業用水が止まると蚊が発生したりとか病気のもとにもなりますので衛生面の観点からも松山市はどのように考えているのかお聞きしたいと思います。

【下水道政策課長】 下水道部の高市と申します。ご意見ありがとうございます。一般の水路は市役所の河川水路課が直接維持管理を行いますが、大体は地元の水関係者の方、土地改良区さんや水利組合さんが維持管理を行っています。ただ、水路はたくさんございますので、地域の方のご協力をいただいて清掃をしているのが実情です。しかし、高齢化が進みなかなか人がいないことや、暗渠になっている水路があったりしますので、地元でできない場合はご相談いただければ、こちらで検討してできるところはやっていくというかたちでしておりますので、地元の方のご協力をいただきながら、維持管理しているところでございます。よろしく願いいたします。

【男性】 北井門の私道から南側の内川の堤防に上がる道があるんですけど、その道にはごみ集積所があって近隣住民の私たちや小さい子ども、高齢の方などが通っています。実際にその道で高齢者や子どもが転倒してけがをしている状態です。これは危ないということで、北井門町の町内会とも連携をとりまして、内川の堤防に歩道を設置してほしいということで近隣の約70世帯から署名を集めました。内川の堤防なので愛媛県中予地方

局建設部の人と打ち合わせをしたんです。内容を話したところ、歩道設置に関しては松山市にしてほしいということだったんです。後日、北井門町内会の方と松山市の道路管理課に訪問しまして内容を説明したんですけれども、歩道を設置することに関して私道と堤防を通る道を市道に変更しなければ歩道が設置できないと言われましたが、実際はものすごく難しいのではないかと思います。私たちの考えですが、安全のために早急に階段付きの歩道と手すりを設置してほしいというのが要望です。

【都市・交通計画課長】 道路管理課に相談されたということですので、持ち帰りまして、状況を確認してなるべく住民の方が使いやすい方向にならないのか検討させてもらいます。

【市長】 必ず捉えさせていただいて、検討させていただきます。

【男性】 市長さんは市政全般にわたってご尽力されていることを心から感謝いたしております。私ども古川町では昭和36年に隣保館が建設されました。以後、ふれあいセンターと名称は変わりましたが、いつも管理人が常駐しておりました。今回、耐震の問題でふれあいセンターをつぶして新しいものにするとということで市から3人いらっしゃいました。古川町内会と古川土地改良区の幹部の4人で一緒に話をしたところ、今度新しい建物には管理人室をつくらないんだとおっしゃるわけです。管理人室をつくらないということは、「管理人は必要なしということですか」と聞けばそうだとされるんです。古川は非常に大きな町で、管理人がおられないと町内会の運営がやっていけないんです。これは町内会だけではなくて、古川には町内会のほかに古川土地改良区だとか古川長寿会だとか古川史談会、古川女性部、一の宮神社奉賛会などたくさんの各種団体があるのですが、その各種団体のトップも全員揃ってどういうことだと非常に憤慨して、もしこのまま進むのであれば署名運動をしようじゃないかという話まで出ているわけです。町内会と市と3回話し合いをしても平行線だったのですが、あるときの話し合いの中で市の方から管理人がいなくても集会所や公民館の鍵を近くの家に預けておけばいいではないかと言われました。管理人の仕事を全く理解しておられない方と私は思いまして、そんなことを言うのであれば古川も南と北と西とありますので、西と北にも集会所とふれあいセンターを建ててください。そうしたら、管理人は要りませんと言いました。それはできない、管理人は置かないと言われたら、古川はどのようにして町内会を運営していったいいのかわかりません。昭和36年に隣保館ができたときは小さな町で人口も少なかったのですが、それが今は古川は人口が1万人を超えて世帯数も4,500軒あります。ずいぶん大

きくなったのに小さいときに管理人を置いて大きくなったら管理人が要らないというのはどういうことなんでしょうか。本当は2人ぐらい欲しいのですが、2人くれとは言いません。ぜひ1人は欲しいです。市が管理人不在の方向で進んでおられるんだったら、古川も小さな町だったら松山市の意向に沿って「管理人も要りません、結構です」と言いますけども、今は「管理人は要りません、結構です」とは絶対言えません。運営ができないんです。ぜひ、市長に寛大な心でビルができたときに管理人室をつくっていただきたいです。よろしくお願いいたします。

【市民部長】 市民部でございます。今、お話のございました古川ふれあいセンターですが、昭和36年に建設いたしまして古いものですから耐震強度が得られていません。それで、建て替えを計画しておりまして、地元の役員さんにご説明をさせていただいているところです。ご要望の管理人室の設置についてですが、まず松山市の現状を申し上げますと、ふれあいセンター以外の市の施設では住み込みの管理人を置いている施設は今現在ございません。市内の公民館本館では住み込みの管理人を置いているところもございましたが、平成16年度中に管理人室を廃止いたしました。また、昨年度に建て替えを行いました清水ふれあいセンターですが、ここは建て替えにあわせまして廃止をさせていただいております。今回の建て替えにあたり、限られた建設面積の中で管理人室をつくるよりもより多くの方が利用できる会議室とするほうが住民の皆様のサービス向上につながるのではないかと考えて提案させていただいておりますが、地元の皆さんの合意を得た上で進めたいと思っておりますので、引き続きお話し合いの機会を持たせていただけたらと思います。

【男性】 管理人は置かないということですか。

【市民部長】 今現在はそういう方針を立ててはおりますけども、地元の声をもう少し聞かせていただきたい。地元の声を無視して建設しようということではございませんので。

【男性】 川下の言うことをもっと汲み上げていただきたいと思うんですよ。そうでないと、情勢は行き詰まってしまうのではないかとと思うんです。先ほども言ったように、古川が小さいまちだったら言いません。これだけ大きくなったらどうしても管理人は必要なんです。やっていけないです。

【市民部長】 引き続き、お話し合いをさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

【男性】 まちづくりの普及拡大の件でございますが、石井地区は5万8千人の皆さんがまちづくりで大変ご努力をいただいているのですが、よく

感じることもありまして、昨日、ごみ掃除をしました。下部の単位まで拡大をしないとまちづくりは難しいのじゃないかなと思うんです。ごみ1つにしても例えば4～5年前に余土地区のごみを見学に参りましたけれども、非常にきれいだったです。世界でも日本はごみがなく世界一きれいと言われていますが、松山市もほとんど道路にはごみが落ちておりません。しかし、ごみ置場は残念で、昨日もあらゆるものが混ざった状態で置かれていたので、小さい単位のまちづくりに取り組んでいただきたいと思うのですが、ご意見を伺いたいと思います。

【市長】 ごみのことはできるだけわかりやすく話します。ごみに関する経費を義務的経費といいます。これはどうしても必要になる経費のことで、例えば教育とか福祉とか政策的に充てていく経費を政策的経費というんですけれども、ちょっと財政の話をさせていただきます。皆さんテレビでよくご覧になるとと思いますが、国自体が1千兆円を超える借金を抱えているといわれています。日本国民が貯蓄を持っているからまだ安心という議論がありますけれども、1千兆円を超える借金を抱えているのは事実です。これを国民1人で割り算をすると1人あたりどれぐらいになるかというのは頭の痛いところです。国から地方に地方交付税交付金とか国庫支出金というかたちで地方にお金が回ってくるのですが、仕送りと同様とありますが、親元が苦しかったら仕送りが増えるとはとても考えにくいですよね。ですから、これから本当に地方は決まった財布の中で物事をやっていかないとしょうがないです。私はもうすぐ48歳になりますが、いずれお世話になる世代になっていきます。今、皆さんから「こういうのをつくってください、ああいうのをつくってください」と言っていたのですけれども、「わかりました、それやりましょう。あれやりましょう。これやりましょう」というと、我々の世代はいいかもしれないけれども、基本的に30年ぐらいは使わないといけません。建てる時だけにお金が必要のだったらいいですけれども、30年使うとしたらずっと維持管理のお金が必要なんです。30年経って建て替えの議論がおこったときに、また建て替えるのか、なくすのかという議論が出てくると思います。その維持管理の費用は誰が払うのかといたら、子や孫の世代が払うんです。今、少子化社会と言われていますが、子どもの数はどんどん減っているわけですから、これではいけないから子どもの数をもっと増やしていきましょうという政策を色々やっているんですけれども、我々お世話になる世代がいっぱい増えてくる。実際に働いて税金を納めてくれる人の数はどんどん少なくなってくるんです。その中で色んなものを建てたら苦労するのはどの世代かと思ったら子や孫の世代なんです。皆さんの色んなリクエスト

をいただきながら、これは今やるべきことなのか、もうちょっと後にやるべきことなのか、そういうのを考えていけないといけないのが、どこの地方自治体もその問題に直面しているというのがまず前提条件です。ごみの話は松山にとっていい話です。松山市の1日1人あたりのごみの排出量は、5千人の町と50万人の都市では単純比較はできませんから50万人以上の都市の中でというくくりになりますけれども、全国で最少です。8年連続で全国最少を記録しているのが松山です。リサイクルできるものはリサイクルに回しましょう、生ごみも水切りをしてもらったら少しでも減量ができるので水切りをしましょう、生ごみもコンポストなどを使って肥料にすることもできるとか、皆さんのご協力をいただいているので8年連続で全国最少になっているんです。もう1つわかりやすくいうと、ごみ収集の日があります。ごみがいっぱいあったらごみ収集する人の数もいっぱい要ります。ごみがいっぱいだったらごみ収集の車もいっぱい要ります。ごみは一般的にクリーンセンターに持って行って燃やします。ごみクリーンセンターをつくろうと思ったら多額のお金がかかります。ごみが少なかったらごみ焼却施設も長持ちするんです。長い間使えるんです。つまり、ごみが少なければ少ないほど義務的な経費を減らして教育とか福祉の政策的な経費に充てることができます。ですから皆さんのご協力はとてもありがたいです。私が就任させていただいたときに、大学がある地区ではごみがいっぱいだったんです。ごみ出しのマナーも悪かったんです。それは他の土地から来るから松山のごみ出しルールに慣れていなくてごみが残っていることが結構多かったのですが、ペットボトルの収集のときにキャップとラベルを別々にしてくださいと清掃課の職員が何回も足を運んでルールが徹底されるようになってきています。ごみ出しのルールが守られていないときには啓発看板がありますから、困っている方は言っていたら看板も設置できますし、私らだけでは手に負えないので困っているということがありましたら、清掃担当に言っていたら直接指導に行くこともできますので、大きな枠組みで話したんですけれども、そのようなかたちでごみについては考えています。

【男性】 大したことではないですけど、先ほどから私が感じていることで、非常にこの会場が寒いです。市役所の本館に行くと職員さんは本当に大変だろうなというぐらい暑いです。ここは2階ですけども、支所に行ったときも私が支所に入った瞬間に寒いと思ったんです。クールビズで一生懸命頑張っている中で、本庁と支所の考え方が違うのかなというのを感じました。設定温度はちょっと見えないのですが、先ほどから非常に寒い

です。つまらない意見ですけれども、電力不足とか伊方原発とか色々な問題が出ています。やっぱり節電も1人1人がやればできることであって、市役所を書いてありましたけれども、節水とは水を使わないことではない、節電とは電気を使わないことではない、ただ節約をすれば助かるのは市であり、家庭であれば皆さんそれぞれです。ここももう少し温度を上げてても皆さんは怒りはしないのではないかと思います。

【市長】 実は暑さ、寒さは難しいです。子どもを抱っこすると子どもは熱いなど感じると思います。子どもは大体熱いですね。年齢とともに感じ方は変わってくるようです。そして、市役所は非常に西日が差すところにあります、私の部屋も夕方になると暑かったりするのですが、できるだけ自然にやさしくということで、正岡子規さんゆかりのへチマを植えて緑のカーテンにしたり、ゴーヤを植えたりしながら工夫をしております。市役所では「市民の皆さま、薄暗くてすみません」という貼り紙をしていますが、できるだけ節電に努めているのが大号令でございます。実は私が就任させていただいて、細かいことを言う市長だなど思われたかもしれませんが、両面コピーを徹底してくださいという話をしたんです。私は民間出身ですから至極当たり前のことですが、市役所ではなかなか両面コピーが進みにくいところがあったんです。それは、皆さんの個人情報を取っているというところなんです。両面コピーをして皆さんの個人情報が漏れることがあってはいけませんから、そこは慎重にやらなくては行けませんけれども、できるだけ両面コピーをやってくださいということにすると、1年間で300万円のお金を節約することができたんです。これは、市役所職員の皆さんにコスト管理を徹底してやってください、前の市長もそうでしたけれどもコスト感覚はかなり持っていますよというのを意識付けるためにやらせていただいたんですけれども、大号令としてお金をきちんと節約して使うというのは意識の中にあると思います。それはまた広げていきたいと思っておりますので、ご指摘ありがとうございます。

【女性】 星岡に住みだして5年になります。別の市から引越してきました、星岡町は他の町の方にも自慢できるぐらい活動が盛んな地域だと思います。今年から私は放送の担当をさせていただいております、自分でしゃべるようになったからというものもあるんですけれども、色々な方に放送が聞こえるかどうかを聞いてみたら、聞こえないという方もいらっしゃるわけなんです。放送スピーカーを設置するのはとてもお金が要ると思うのですが、2番目のテーマ「高齢者にやさしいまちづくり」を考えても、星岡でも行方不明になられた高齢者の方の放送なども流れたりもしますが、私が

2度放送をしている間にその特徴をメモをすることができるかといえは難しいと思うんです。今、こちらにいらっしゃる方はほとんどの方が携帯電話をお持ちだと思うんです。メール機能も付いていますし、若い方でしたらアプリなどで情報を発信して情報を受信することができるようになれば、スピーカーよりも安くて地域の情報をキャッチすることができるようになると思うんです。もちろん町内の広報もありますし、市の広報紙もありますけれども、どうしてもタイムラグが出てしまいます。私は小学生の娘がいるんですけれども、小学校の場合は小学校からの情報を各学年ごとにアプリで送られてきたりとか、不審者情報をキャッチすることができるんですけれども、それに登録しないとキャッチできないわけで、母親世代はそういうアプリを学校から登録してくださいと言われて情報を収集することができるのですが、高齢者にやさしいまちづくりを考えるにあたっては、確実に情報を手に入れられる手段を何かソフト面で考えていただけたらと思うんです。各町で管理できるようになれば、情報の発信は放送を担当している人間が同じようにメールで打つことができればいいかなと思うのですが、市長さんはどのようにお考えでしょうか。

【市長】 はい、わかりました。2つあると思います。まずスピーカーについて述べさせていただいたと思うのですが、テレビの放送でいうとわかりやすいですが、昔はアナログ放送とっていましたが、今はデジタル放送になりました。これはデジタルにしたらチャンネルを有効に使えるんです。なので、全体としてデジタルにしましょうと松山市の防災行政無線もアナログの放送からデジタルになっているんです。各地の防災無線を替えているんですけれども、ここで悩ましいのはスピーカーを設置するときできるだけ皆さんに聞いていただけるように大きい声で届けたいのだけれども、今は大体の場合住宅がそばにあるので、すぐの住宅の方にとってはうるさいと、その折り返いなんです。方角をどちらに向けたらいいのかとか、方角を変えたら別の方角の方が聞きにくくなったりするので、危機管理担当部とか消防局が現場に行って、聞こえはどうか、角度はどうかというのを各スピーカーでやっていたと記憶しています。そういう現状がある。私も子どもがいて大きくなりましたが、MACシステムで不審者情報が流れてくるのは親御さんにとっては安心の材料だと思うんですけれども、確かにこれから高齢化してきて認知症で行方がわからなくなったりすることも当然考えられます。それを皆さんの目で守っていくというのも大事なことかなと思いますので、見守りネットワークについて西市部長からお願いします。

【社会福祉担当部長】 保健福祉部の西市です。ご質問ありがとうございます。

ます。私からは徘徊者の見守りネットワークについて触れさせていただいたと思います。平成24年度に行方不明者の捜索や高齢者の一時保護を目的といたしまして、地域包括支援センターと警察、そして民生児童委員さんや銀行などの民間企業の協力のもと「松山市認知症高齢者見守り・SOSネットワーク」を設立させていただきました。今は携帯電話を皆さんお持ちだと思っておりますが、それに登録していただいて徘徊の対象者の方が見つかりやすい仕組みをつくっているものです。これに登録すると、高齢者の方が行方不明になった場合に、捜索や情報提供の協力をしていただく支援者が松山市に約200名ほどいらっしやって、その方に一斉送信されます。それを見た方が社会福祉協議会や松山市の介護保険課とか高齢福祉課に情報を寄せていただくシステムで、市民の方が誰でも加入できる制度ですのでご利用いただきたいと思っております。それともう1点は松山市で水道・電気・ガス・郵便局などの事業所の方に見守りをしていただく役割として、色んな業務で独居高齢者とか認知症の方のお宅に訪問したときに異変を感じた場合は通報をしていただく「松山市見守りネットワーク」というのもあります。これも同じような役割を持っておりますので、今、社会福祉協議会と松山市で仕組みを一本化しようという動きがあります。それが実際に具体化すると皆さんへ広報紙とか色んな手段でお伝えできると思っておりますので、もうしばらくお待ちいただいたらご利用できるサービスが充実できると思っておりますので、よろしく願いいたします。

**【市長】** 市民の皆さんの声を受けて、使いにくいなと思ったら改善をしていくのが我々のやるべきことなので、皆さんの声を寄せていただけたらと思っております。中にはもう市民の皆さんが全部使えるようにすればいいというお声もあるんですけども、難しいところがありまして、通信料はかかるんじゃないかなと思っております。多少なりとも通信料がかかっているのと、松山市には防災のメール制度があって、地震のための訓練ですというメールをかなりの市民の方に対して流したことがあるんですけど、会議中なのに松山市がメールを流してきて音が鳴ったので怒られてしまったという通報があったりするので、どれだけ間口を広げるのかというのはなかなか難しい。基本的に利用したい方が登録するという流れで大体やっているというかたちです。どこまで間口を広げるのかというのは行政として大変難しいところだなと感じているところです。

**【男性】** まちづくりの普及・拡大についてというテーマの中で、私どもは色々考えながらまちづくりをやっているんですけど、松山市としてどのようにしたら普及・拡大するかと考えておられるか聞きたいと思っております。

【市長】 まちづくり協議会ですか？まちづくりですか？

【男性】 まちづくり協議会の在り方であるとか、先ほどもごみの問題もありましたけれども、今朝も小野川の堤防の掃除をまちづくりの部分で参加させていただいたんですけれども、そういったことも何をやっているんだろうという人もいらっしゃると思うんです。松山市は協議会がまだできていないところもたくさんあるように聞いておりますけれども、実際に石井はできていますが、中には何をやっているのか知らない方もたくさんいらっしゃるんですよね。私も参加はしているんですけれども、横に座っている人に「何で来ているの」と聞くと、「とりあえず出席するように言われて来た」という話が多いんですけれども、そういったことも踏まえながら松山市の市長さんとして色んな推進をしていると思うんですけれども、どのようにお考えかお伺いしたいと思います。

【市長】 はい、わかりました。このまちづくり協議会は、中村時広前市長のときから始まっておりますが、私が引き継がせていただいて、いい制度だと思いました。これは全国的に悩みながらやっているところもありますけれども、冒頭に申し上げたように行政が一番わかっているのか、地域に住んでいる方がよくわかっているのかというと、松山市は41地区あると申し上げましたが、各地区の課題や魅力を知っているのはそこに住まわれている人たちです。行政が中心になってまちづくりをやってしまったら、41地区が同じ金太郎飴のようなまちができてしまいます。そうするよりも、いい組織ができたならば地域にできるだけ財源と権限をお渡しする。いい組織はなぜかという、例えば暴君みたいな人がいて「私のためにこのまちづくりをするんだ」ということになってしまったら、皆さんの公のお金ですからいけないですよね。いい組織ができたならば財源と権限をお渡ししましょうというので、まちづくり協議会をやっております。石井地区さんは本当に頭が下がります。要支援者の名簿のことや先駆的な取り組みをしていただいております、本当に心強いなと思っております。先頭に行く方は風を感じるんです。色んなハードルもあると思っておりますけれども、取り組みをされていることに心から敬意を表したいと思います。こういうまちづくり協議会を広げていきたいです。先月、北条市民会館でまちづくり協議会で先駆的な取り組みをしているところに発表をしてもらいまして、まちづくりの運動を見てもらう、いわばまちづくりの運動会をさせていただきました。まちづくり協議会でこんなことができるんだというのを各41地区の方に見てもらうんです。それでまちづくり協議会を進めていきたいと思いますという動きをさせていただいております。私が就任させていただいて5年目ですけれども、まちづくり協議会はこれからを考える上で、

いい組織、いい動きだと思いますので、これはますます広げていきたいと思  
いますし、まさに活動をしてくださっている石井地区の皆さんには心か  
ら敬意を表したいと思います。また、これからもよろしく願います。

【男性】 今、市長さんが言われておりました石井地区まちづくり協議会  
は、会長さんを中心に積極的な活動をされておられる。私も一委員として  
参加をしておりますが、今までに見たこともない、あるいは聞いたことも  
ない活動をされています。先般、石井地区で史跡・文化財マップをつくり  
まして、各町のご家庭や小学校や中学校に配布をされていますが、石井地  
区の史跡とか文化財を知るのにはいい資料だと思うんです。石井地区は5  
万8千人で転入をされる方が多いものですから、たくさんいらっしゃるど  
しても石井地区は33の史跡・文化財があるんですが、他町のことはほと  
んど知らないです。自分のところでも年に1～2回は前を通ったことがあ  
るなというケースが多いものから、この資料を使って他町と人材交流  
を図ったり、マップに載っているところを歩いて歴史を知るといった運動  
や流れができれば石井地区はより愛着心のある石井地区の人になれるか  
なと思えます。これはまちづくり協議会だけの力だけでは限界もあると思  
う部分もありますので、市も全面的なご支援をお願いしたい。市長さんが  
先駆的なところもあると言われましたものから、これは利用したらど  
うか、あるいはこれを参考にされたらどうかというところをご指導いただ  
ければと思ひまして質問させていただきました。

【市民部長】 市民部でございます。ご意見ありがとうございます。私も  
マップをいただきまして、石井でないとなかなかできないことだと思  
いますし、立派なものをつくっていただきましてありがとうございます。  
この活用ですけれども、今現在は各町内や学校には配っていただいている  
とは思いますが、子どもたちが自分たちの住んでいるところのこ  
とを知らないというのは、やはりそこから教育を始めないといけないんじ  
ゃないかなと思ったりもしますので、学校での活用をさせていただき  
たいと思えます。せっかく立派なものをつくっていただいていますので、  
ご提案いただいていますような町内の方々に見て回っていただくとか、町  
外の方との交流の場にも使っていただきたいと思います。その活動をぜひ  
ともまちづくり協議会の活動の中でご検討いただけたらいいかなと思  
います。

【市長】 やはり自分たちの住んでいるまちに愛着や誇りを持っているこ  
とが大事だと思うんです。今年、よく地方創生と聞きますが、国が1千兆  
円の借金を抱えているので、とにかく地方で工夫をしてもらわないと一律

には立ち行かないところもあるのかなと思います。東京に一極集中していく。高校まで松山で過ごして大学は東京や大阪へ行くみたいなことが多いですよね。帰ってきてくれたらいいですけど、帰らずに東京や大阪で就職をしてしまう人も当然います。それもいいかもしれませんが、東京や大阪に集中して地方は人間が減るばかりになってしまいます。地方に人が続けて住むようになるためには、考えてみたら高校・中学・小学・幼稚園・保育園の子どものときに自分たちの住んでいるまちにどれだけ愛着や誇りが持てるかですよね。自分の住んでいるまちに愛着や誇りが持てなかったら、帰ってくるわけがありません。子どもの世代に松山や石井地区に愛着や誇りを持つことがものすごく大事だと思いますし、もちろん高校生までの話ではなくて、今住まわれている方が自分たちの住んでいるまちに愛着や誇りを持てたら心潤う生活ができると思います。こういうマップは例えば人生の先輩方の敬老会などで歴史散策をしていただくときに使っていただくとか、今はちょうど夏休みですけど小学校のお子さんたちの自由研究で使っていただくとか、ウォーキングのコースに利用していただくとか、使い道はたくさんあると思います。いいものをつくっていただけたと思いますので、さまざま使っていただけたらと思いますし、困っているということがあれば遠慮なく相談していただければと思います。

**【男性】** はなみずき通りができて非常に交通量が多くなりました。朝生田西交差点のところではなみずき通りから北へ行きますと松山南環状線があります。はなみずき通りを古川から北上すると1つは右折車線、1つは左折車線と直進車線がございます。直進車線と左折車線が1車線なんです。ご承知のように通勤・通学の高校生を含めて、自転車及びバイクが全部直進するんです。そうすると左折待ちの車両がいると直進が全くできないんです。そこがものすごく渋滞になっているんです。（地図を指して）このあたりが開いているので、左折専用の車線をつくっても、市内に入っていく道路の幅が確保できるのではないかということで、交通渋滞するとガソリンとか環境の面でよくないので、どうぞお考えいただきたいということが1点です。

**【都市・交通計画課長】** 都市・交通計画課の石井です。そこは朝夕かなり渋滞があると以前からお話を伺っています。1つは現在整備中である外環状線の大部分が完成してはいますが、さらに完成すると交通の分散化が図れるだろうということで、その状況を見極めたいというのが1つです。もう1つは横断歩道橋が環状線にございますので、その場所とか、横の建物と道路の高さが結構段差があるということで、調査をしないとわからな

い部分もありますので検討してみます。まず外環状線の状況をみながら道路の高さと歩道橋等について検討してご返答したいと思います。

【市長】 高校生の自転車は直進するから、車が左に曲がりたくても曲がれないので後ろがつかえるということですね。わかりました。どうぞ、こういうことは遠慮なく言っていただきたらと思います。例えば信号をつかってほしいとか、またガードレールをととか、例えばゾーン30といひましてお子さんが多いところなので30キロ規制にしてくださいとか、スピードが出ないような道の工夫をしてくださいとか、こういう道路の規制は大體警察の範ちゅうになります。規制することによってプラスもあれば、逆に規制される人もいるんですね。規制される人がいるから、基本的には地域住民の方のご理解・ご協力が必要です。大きな方向性の話ですが、道には国道があったり、県道があったり、市道があったり、私道があったり、農道があったり色々しますので、市で受けて県に話を持っていったり、警察に話を持っていったりします。私どもも聞かせていただいたことをないがしろにするのではなく、しっかりと捉えたいと思います。今、石井課長が申しあげましたように外環状道路が伸びていまして、国道33号の樁さんのところでは6割くらい渋滞が解消されたと伺っています。どうしても二重投資は避けたいというところがあって、にらみながらというところですが、しっかりと受けとめさせていただきたいと思います。このあたりの歩道の状況も一応知っているつもりではあります。ゆとりはあるのかなと思っっていますので、その辺をにらみながら警察とも話ながら見ていきたいと思っっています。

【男性】 今の件ですが、ものすごく細い裏の道を迂回路でビュンビュンとばすんですよ。朝は私の家の前も玄関を一步出たら前を勢いよく車が走るんですよ。本当に怖いんです。そういうことも考慮していただきたいたいということでお願ひします。それからもう1つですけれども、松山インターチェンジの高速バスの停留所のところについて、これもお金が要ることでどこの管轄かわかりませんがお話しします。皆さん、松山インターチェンジの高速バス停を利用されたことがありますか。あそこはものすごく狭いです。皆さん高速バスに乗るわけですから荷物を持っているんですね。雨が降ったら、傘をさしながら荷物を持って右往左往しているのですが、雨宿りするところが非常に狭いです。あそこは雨宿りだけするところではなく、正確には待合室といひますね。それともう1つは、待合室に時刻表の一覧がないんです。各社が各様にバス停を置いて、県外から来た人は何のバスがどう動くのかわからないんです。もう1つ、高速バスの停まるところが狭いです。今頃は定期バスだけではなく、ツアーバスがあそこに停まるんで

す。そうしたら、大きな荷物を持ってうろうろするんです。もう少しわかりやすいものをつくるべきだと思います。石井地区でもあるし、松山市の高速道路の表玄関です。国体がこれから開かれるときに表玄関が今の状況では県外の人に不親切でわかりにくいので、県外の人 came ときに使いやすい待合室に整理統合してほしいと思います。個人的にはダイナミックな発想をしますと、矢崎綜業のところにマクドナルドができましたが、本当はあそこにバスターミナルをつくって、コラボで民間が入ってやるくらいのダイナミックなことをしてほしいです。市長、お金はかかりますけど、石井地区の玄関ですのでよろしくお願いします。

【都市・交通計画課長】 先日見に行かせていただきました。パークアンドライドで駐車場に置かれて高速バスに乗られる方もいらっしゃるの、かなり乗降者が多いバス停だと認識しています。現在は伊予鉄道さんの相互乗り入れのバスの時刻表とJRさんのバスの時刻表が別になっていて、バス停も別になっている。待合所自体は国の道路の上に伊予鉄道さんが専用でつくられている状況のようです。伊予鉄道さんに問い合わせましたところ、検討しますと回答がありましたので、市としてもできることがあれば色々考えた上で、待合所については伊予鉄道さん、JRバスさんと検討していくことにしています。それと、バスが停留するスペースですけども、あそこは国道ですので国と相談したいと考えています。バスターミナル構想については上下車線ありますので、配置とかお金のことを考えると現実的には難しいところもあると思いますので、現在の状況が改善できる方向でバス事業者さんと国と前向きに検討したいと思っていますのでよろしくお願いします。

【市長】 私もなるほどと思いました。高速バスに乗られる方ですから荷物が多いでしょうね。普通の市内を走っている一般利用のバスに比べると高速バスの方々は荷物が多く雨のときにどういう動きをするか、見知らぬ土地でバスが来たらどう動くかを教えていただいたところです。またバス事業者さんと話をしながら進めさせていただいたらと思います。

【女性】 石井東地区社協です。私たちの地域の福祉活動計画の基本理念が「安心を笑顔で支える人つなぎ夢つむぎ」として、たくさんの方が笑顔になれる社会を目指して、まちづくり協議会と連携しながら日々頑張っています。その中で災害時要支援者対策のモデル地区として3年目を迎えました。当時の支援者の内訳を細かく把握してみましたら、びっくりしたんですけれども、65歳以上の高齢者で要援護率が39.9パーセントです。今後、町内会とか防災組織との協働活動を推進するためには、福祉マップ

などもつくっておりますけれども、もう少し個別援助活動の情報収集に取り組んでまいりたいと思っています。この個別計画の整備については私たち独自のものを進めていますけれども、松山市での様式などございましたらお教えいただきたいと思います。また、近隣協力員の見直しをこの時点でしておりますけれども、市として近隣協力員との連携強化のための方策についてご指導をお願いしたいと思っています。よろしく願いいたします。

【社会福祉担当部長】 保健福祉部の西市でございます。いつも会長さんをはじめ、地域の社協の皆さんにはお世話になっております。ありがとうございます。ご質問がありました災害時避難行動要支援者名簿は、先ほど市長からもお話がありましたように、松山市で初めて平成25年度に石井地区で名簿の開示について実行がなされたわけです。この取り組みは皆さんご承知のように、平時のときは、さほど近隣にどなたが住んでおられようとあまり影響がないとか関心がないのですが、大きな災害がおきますと近隣住民の助け合いがまずは大切な行動になろうかと思っています。65歳以上の単身の高齢者の方とか、障がいのある方を支援していく取り組みをするためには、そういった方がどこに住んでおられるかという情報がまず必要ということで、平成18年度に個人情報保護法令が出された関係で個人情報の開示が難しいという部分について、松山市の個人情報保護審議会の審査会の中でこういった情報の提供について提案させていただき、石井地区と協定を結び、情報開示ができる仕組みをつくっていただきました。今お話のありました個別計画の推進にあたっては今後も情報の提供は率先してやっていきたいと考えています。また、災害が起こったときにはなかなか町内の役員さんだけではそういった方の避難をするお手伝いが難しいと思いますので、近隣協力員として何名か登録していただいています。今後の拡大については私ども行政も色んな機会を通じて協力をしていきたいと考えていますので、ぜひとも石井地区が松山市の先進的なまちになるように今後ともご協力いただいたらと思います。よろしく願いいたします。

【市長】 補足させてください。「災害時の」という言葉が出てきたのですが、皆さん、該当する方は手を挙げていただいたらと思います。新しくなった防災マップを皆さんのご家庭に配らせていただきました。防災マップというのがあるのを知っているという方は手を挙げていただけますか。ほとんど挙がりましたね。じゃあ詳しく中身まで見たという方は手を挙げていただけますか。どうしても下がるんですね。この防災マップは海のそばで浸水が心配な地区に蛍光色を付けているのですが、昔は目立つようにもっと派手な色を付けていたんです。でも目の不自由な方からすると派手な蛍光色のほうが見にくいということで、そういうことまで配慮した防災

マップを出しているんです。1 ページ目に出ているのですが、8 割、2 割という話をさせていただきます。前回、防災マップを配らせていただいたのが平成 23 年の 3 月だったと記憶しているのですが、そのときのアンケートで松山市民のおよそ 8 割の方は何らかの災害に遭うだろうと思っているんです。地震が想定されますけど、家具の固定をしている方はわずか 2 割しかいなかったんです。皆さん自分 1 人の力でたんすを持てますか。持てないですよ。中に入っているものを全部引き抜いて 2 人だったらたんすを持てるかなというくらいだと思います。それくらい重いです。私は防災士の資格を取らせていただきました。東日本大震災のときに東京にちょうど出張をしまして帰宅難民になりました。そういう経験もあって防災士の資格を取ることによって知識と意識を高めようという思いで防災士の資格を取らせていただいたのですが、皆さん家具固定は絶対してくださいね。重いたんすが震度 7 くらいの揺れになると倒れてきます、飛ぶように動いてきます。それに直接当たったら命がなくなることもありますし、当たらなくても逃げ道がなくなるんです。1 人じゃ運べない、2 人でも何とか運べるくらい、それだけ重いたんすが寝ているときに足に倒れてきたらどうでしょうか。足の骨が折れるかもしれませんね。家具固定が大事なのがわかっただけだと思います。皆さんが例えばお風呂やトイレに入っているときに震度 7 の揺れが起こったらやるべきことは何でしょうか。トイレは孤立した空間で比較的安全な場所だと言われてはいますけども、これは防災マップに書いているんです。役立つことがいっぱい書いているんですけども、窓を開けること、戸を開けることです。閉じ込められてしまって出られなくなることがありますから、大揺れのときはなかなか難しいかもしれませんが、揺れの合間を見計らいながら戸を開けることが大事になってまいります。出入口が開かなくなる恐れがあるので、揺れの合間をみてドアや窓を開けましょうと書いてあります。全部そういう情報は防災マップに書かれています。案外、見られていないんですよ。防災マップは全戸にお配りしていますので見ていただくのが大事、防災情報研究センターの方々と一緒につくって有効な情報がいっぱい載っていますので、また見ていただいたらと思います。よろしくお願いします。

【男性】 私は議会だよりを都度、克明に見させていただいています。先日、3 月の議会の詳細を知りたく議会事務局に電話をしましたところ、6 月 3 日じゃないと出せないということでございました。詳細を色々お聞きしますと、録音してから色々起こして、そして異論がないようにしているから時間がかかるということでございましたが、3 月の議会の質問事項が

6月3日じゃないと手に入らない。議会だよりはその前にいただいておりますので読んではおりますが、詳細を知りたいと思ひまして電話をしまして、以上申し上げたとおりでございます。少なくとも1カ月後には要求すれば出していただきたいと思ひます。6月議会も間もなく議会だよりが来ると思ひますが、見させていただけまして必要なものはいただきたいと考えています。この点をひとつ検討していただきたいと思ひます。それから2番目でございますが、先日6月議会を傍聴いたしました。傍聴席に座っていますと非常に聞きづらいんですね。今、市長との一問一答をやっていますから、かなり白熱したところの議会も見せていただくわけですが、どうも聞きづらいのでその辺も検討していただきたいと思ひます。

【市長】 議場は改修計画があります。だいぶ古くなっていますので改修していききたいと思ひています。そして議会だよりですが、議会での回答は大事な場になりますので、例えば助詞が「に」でも違いますし「も」でも違いますし、そういうところもあるので正確にやっているのだと思ひます。今、議会はインターネット中継があるんですが、それがいつになったら見られるのか職員で答えられる方いらっしゃるでしょうかね。

【男性】 時間がかかりますので紙を要求したいです。紙のほうが詳細を何回も見られますので。

【市長】 そうですね。わかりました。また議会事務局に伝えておこうと思ひます。

【男性】 まちづくり協議会の会長です。市長さん、立派な事務所をつくっていただいてありがとうございました。41地区ありますけど、こんなに素晴らしいまちづくり協議会の事務所、あるいは社協の事務所をつくっていただいたことを本当にうれしく思ひていますし、頑張ってまちづくりをやっていききたいと思ひています。私どもが平成23年5月にまちづくり協議会を立ち上げてからあと半年で5年目が来るわけです。今まで計画してどれくらい進んでいるのかということで、反省してまた新たに取組もうとしているのですが、市長さんがこの石井地区をどのようなまちにしたいかということがありましたら、市長さんのお考えをお聞きしたいと思ひます。今ものすごく人口が減少していて、10年後は石井地区もおそらく減るんじゃないかなということも考えているのですが、石井地区は人口が減少しないように色々と婚活のこととか提言もして、そういうことのないように石井に住んでもらえるようなまちづくりがしていきたいと思ひているんですけど、最後に市長さんのご意見をお聞かせ願ひたいと思ひます。よろしくお願ひします。

【市長】 会長さん、いつもありがとうございます。石井地区はご存知のように市内最大の地区でありますし、人口減少と言われる中でも人口が増加している地区で、松山市の中でも大変重要な地区だと認識しています。石井地区まちづくり協議会さんはさまざまな取り組みをしていただいて、大変心強く感じているところです。また、これからも石井地区まちづくり協議会の皆さんと地域の方々と行政としっかりと連携をしながら、住んでよかった石井を、住んでよかった松山をつくっていきたいと思いますので、また引き続きどうぞよろしくお願ひいたします。15時半が過ぎましたので、私から締めのごあいさつとさせていただきます。本当に徹頭徹尾思いますのは、石井地区の方々には色々と動いていただいてありがたいと感じます。先ほど会長さんから、こんな立派な支所をつくってもらってと言われたのですが、やっぱり動きがあるから我々もサポートしやすいというのがあるんです。ハードはあるけれども全然そこに人も集わないし利用もされてないということだったら話は変わってくるんですけども、石井の方々には動いてくださっているのでサポートしやすいという部分があります。今日、タウンミーティングで色んな話をさせていただきましたが、「どうせ市役所に言ったって変わらないよ」なんて思わずに、例えば「ちょっとそのやり方はできないんですけども、こういうやり方だったらできるんですよ」と他地区の状況をお伝えしたりとか、そういう良い関係を保っていくのが大事なことだと思いますので、また皆さんと連携しながらさまざま進めていければと思っています。市役所というのは三つの文字、市・役・所と書きますけども、市民の皆さんの役に立つ所でなければ意味がない。国・県・市とありますけども、皆さんが国の役所に行くことはほとんどないと思います。県庁に行くことも市役所よりかは少ないかもしれません。皆さんが市役所本庁に来てくださる、支所に来てくださることが多いと思います。よく職員に言っているのは、我々はその市民の皆さんへの距離の近さを手放してしまったら我々の存在価値はない。ですから我々も皆さんの声にできるだけ寄り添っていきたいと思いますし、皆さんも市役所といい距離でいていただければと思います。これからも皆さんと一緒にいいまちづくりを進めていきたく思いますので、これからもお力添えをお願いいたしまして私のごあいさつとさせていただきます。今日は本当にありがとうございました。

— 了 —